

活魚水槽への蓄熱システム導入

この漁協では、海水をポンプで汲み上げる掛け流し方式の活魚水槽がありましたが、アワビの最盛期である夏場になると、海水の掛け流しだけでは槽内水温が上昇するため鮮度保持が難しく、出荷調整に頭を痛めていました。

そこで、ヒートポンプを利用して蓄熱槽に冷温水を蓄え、活魚水槽内の海水と熱交換させて水温を一定に保つ蓄熱式活魚水槽システムを導入することにより、活魚の生存率を高めることが可能になりました。

一方、割安な夜間電力の利用により、ランニングコストの低減も図ることができました。

改善効果

- ▶ 割安な夜間電力の利用により、ランニングコストが低減できました。
- ▶ ろ過槽の洗浄作用が活発なため、循環する活魚水槽の水質を常にきれいな状態に維持できます。
- ▶ ろ過槽を逆洗エアで自動洗浄するため、ろ過槽内の目詰まりが起りにくく、ろ過材の洗浄回数が減少できました。

設備概要

- ▶ ヒートポンプ熱源機
6.9kW (3.45kW×2台)
- ▶ 循環ポンプ 1.0kW (0.50kW×2台)
- ▶ 活魚槽 4トン×2槽
- ▶ 蓄熱槽 6トン×1槽

